33　『古今医統大全』の鍼灸について（第4報）

田中利江子
日本鍼灸研究会

［緒言］徐春甫（生没年不詳）の著した『古今医統大全』百巻は，明の嘉靖35（1556）年に成立した医学全書である．明以前の歴代の医書及び経史百家の医学に関する資料を収録，古説を引いて医学理論を簡明に論じている．また本書に述べられている鍼灸は，明代鍼灸を考える上においても，また日本近世鍼灸に対する影響という面からも重要である．今回の発表では，婦人科の鍼灸について，調査，解析を行う．

［解析］『古今医統大全』に採録される婦人科の鍼灸条文は全137条文で，巻6に103条，巻7に7条，巻80に12条，巻82に6条，巻83に2条，その他の巻に7条が見られた．巻6は「経穴発明」と題された鍼灸専門巻で，経絡ごとに経穴をあげて，取穴法，鍼灸法，主治病證を列記するが，その内容は『鍼灸聚英』を踏襲したものである（本学会第113回発表）．所載の婦人科鍼灸条文103条のうち，鍼の刺入深度や施灸の壮数が記されているもの97条文，禁鍼4条，禁灸1条，微鍼1条であった．刺入深度は1分から1寸に及ぶが，3分が最も多く31条である．施灸の壮数は曲池の7～100壮，中極・陰交の100壮を除くと3壮から7壮の範囲で，3壮が43条と最多であった．経穴の所属経絡は任脈20条，胃経16条，腎経14条，肝経13条，膀胱経12条，その他は28条であった．巻7も鍼灸専門巻で，婦人科鍼灸条文7条は諸證鍼灸経穴の「婦人諸病」の項に属すが，取穴と施灸の指示のみで壮数は記されていない．巻80は外科の巻で，乳癰に対し排膿を目的とする鍼法6条，隔物灸4条，その他2条であった．巻82，83は婦人科専門巻であるが，鍼灸条文は8条と少なく，しかも6条が取穴のみで，うち4条は熱入血室に対し期門を取穴している（同法は巻6他にも散見する）．灸法は崔氏四花穴1条，鍼薬不能治1条であった．

さらに，これら137条を，演者が例年用いてきた病證分類で整理すると，①陰部（子宮）30条，②胸部22条，③月経26条，④帯下・崩など25条，⑤妊娠3条，⑥候胎0条，⑦出産・産後12条，⑧求子5条，⑨その他14条であった．その詳細を見ると，①陰部30条のうち，取穴するもの29条，刺鍼深度の記載のあるもの19条，壮数表示のあるもの20条，施灸指示のみ1条，禁鍼1条，刺絡1条，砭石1条，鍼薬不能治1条で，経穴の所属経絡は肝経9条，胃経6条，腎経・任脈各4条，その他6条であった．②胸部22条のうち，取穴するもの10条，深度・壮数表記のあるもの8条，禁鍼1条，禁灸2条，微鍼1条で，経穴の所属経絡は胃経4条，その他6であった．取穴の無い残り12条は全て80巻に収載されている．③月経26条は全て取穴し，刺鍼深度を提示するもの21条，壮数表示のあるもの22条，施灸指示のみ3条，禁鍼1条で，経穴の所属経絡は腎経・任脈各6条その他14条であった．④帯下・崩25条は全て取穴しており，刺鍼深度・壮数指示のあるもの21条，施灸指示のみ3条，経穴の所属経絡は膀胱経・任脈各6条，肝脈4条，その他9であった．⑤妊娠3条は全てに取穴，刺鍼深度，壮数が記されていた．⑦出産・産後12条のうち，取穴するもの11条，深度・壮数提示のあるも9条，施灸（数壮）の指示のみ2条，その他1条で，経穴の所属経絡は任脈3条，胆脈2条，その他6条であった．⑧求子5条では取穴，刺鍼深度，壮数は全条に併記されていた．

［結語］『古今医統大全』所載の婦人科の鍼灸条文の75%は鍼灸巻である巻6に集中している．ただ巻6の鍼灸条文（経穴主治条文）の内容は『鍼灸聚英』を踏襲するものであるため，婦人科条文に本書の独自性を見いだすことはできなかった．